

「知の基礎体力」を鍛えよう

周 藤 利 一（教授 公共政策企画論）

皆さんが日本大学経済学部に入學した動機・目的、あるいは大学生としてやりたいと思っていることはさまざまだと思いますが、将来、卒業した時点でどのような人間になっているかを考えたとき、皆さんに共通して求められるのは、大学という高等教育機関で学んだ成果を、社会に通用するように、しっかり自分自身に身に付けていなければならないということです。そして、学んだ成果とは何を意味するかと言えば、どれだけ知識を蓄えたか、どれだけ知恵を体得したか、どれだけ知性を磨いたかということです。

ところで、知識、知恵、知性を得ようとするためには、必要な前提条件があります。それは、「知の基礎体力」を身に付けていなければならないということです。ここで「知の基礎体力」とは、読み、書き、話す能力のことです。

スポーツで良い選手になるためには、あるいは良いプレーをするためには、練習を充分しなければなりません、そのためには基礎体力が十分身に付いていなければならないことは、説明するまでもないでしょう。

大学という知の世界においても同じです。知の基礎体力がなければ、どれだけ長い時間、教室にいても、机の前に座っていても、あるいは、皆さんに強い学習意欲があったとしても、知識、知恵、知性を十分に得ることはできません。

そこで、知の基礎体力を鍛えようということになるわけですが、その第一歩は、読むことです。読む能力が向上してこそ、書く能力、話す能力も向上するのです。

教科書や講義資料はもちろん、図書館にある本、大学の前にたくさんあ

る古本屋の本に限らず、電子書籍でも何でも良いので、文字に接すること、文章を読むことが肝心です。

閑話休題。

何か新しいことを発見したり、新しいアイデアを思いつくという創造的行為は、無から有を生み出す天才的な行為のように思われるかもしれませんが、実は、ほとんどの場合、既にあるものを組み合わせたり、既に知っている知識や技術を組み合わせることによって生じたものです。そして、組み合わせることは、短期間にできるものではなく、長い間、試行錯誤を繰り返した努力の結晶なのです。

例えば、日本製品の水準の高さは世界トップレベルですが、これは日本人が組合せの才能に優れていることも大きな要因です。皆さんも使っているウォークマンとか携帯電話など、便利で機能の優れたたくさんの製品がありますが、これらはさまざまな技術を上手に組み合わせたものなのです。

組合せによって新たなものを生み出すためには、あきらめずに頑張る強い意志も必要ですが、組合せの対象をどれだけたくさん知っているかということもキーポイントです。そして、たくさん知るためには、たくさん読まなければなりません。多くの情報は文字で表現されているからです。

ですから、単に大学で良い成績を上げるためだけではなく、卒業して社会人になってから活躍するためにも、皆さんには知の基礎体力を向上させて欲しいのです。そのために、たくさんの文字に接し、たくさんの文章を読むことを是非お勧めします。

